ヨットに学ぶ

（名古屋第二赤十字病院 院長・愛知県）
佐藤　公治

【ヨットは優雅か】

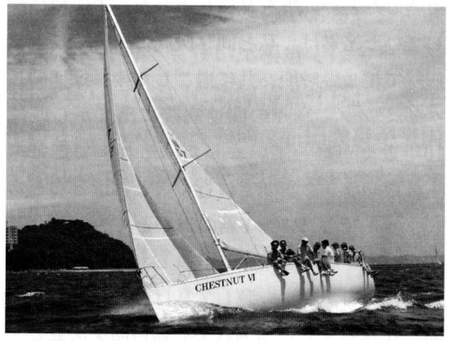
ヨットは自然を相手にするスポーツです。見ていると豪華でのんびりした感じですが，実際は風を見たり，海を見たり，なかなか大変です。天気が良くても，風が強すぎたり，ゲストが船酔いしたり。また雨が降ったり，嵐が来たり，装置が壊れたり。一航海中，とても楽しかったという機会はそう多くはありません。もちろんレースで良い成績だったときは，疲れは吹っ飛びます。

【ヨット歴45年】

私は中学生の頃から蒲郡西浦（三河湾）で親父とヨット（艇名チェスナット）に乗りました。徳島大学時代，ヨット部に属しスナイプに乗り，西医体で優勝し，国体にも出ました。また先輩の船で小笠原レース（父島から小網代湾）や沖縄レース（沖縄から油壺）にも参加しました。卒後，名古屋へ戻り研修に行った病院でヨットHORIZONの邨瀬先生に出会い，メンバーになりました。鳥羽パールレース1987（鳥羽から江ノ島）で優勝，いよいよ外洋へ。32歳，メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース1991に出ました。太平洋縦断5,500kmの往復，愛知県碧南からグアム，ギゾ，シドニーに寄りながらメルボルンまで回航，帰りはメルボルンから大阪までノンストップ，しかも二人でレースです。35日間，３時間交代ワッチでした。貴方なら誰と一緒に海を渡りますか。

【CHESTNUT Sailing Team】

就職後，うちの船を少し大きくして仲間とクラブを作りました。2000年に30フィートのクルーザー（Y30SN）となり，西浦や蒲郡の草レースに参戦，鳥羽パールレースにも自分の船で参加しました。今も，エリカカップなどデイレースを楽しんでいます（**写真**）。



【たかだか10m程の船】

ヨットという器の中，小さな社会です。キャプテン以下，クルーが各ポジションを役割分担します。各自，経験も知識も異なります。仕事ではなく趣味の世界ですが，自然相手で真剣勝負です。危険なこともあります。ポリバレント，どんなポジションもできるのが理想です。辛い時やできない時はお互いが助け合う。素晴らしいチームワークです。

【ヨットレース】

ヨットは風を読むスポーツ。クルーザーは出入港用に小型エンジンを積んでいます。最近のヨットはIT化でナビゲーションなど電子機器が満載です。バッテリー充電のためにエンジンを回します。もちろんレース中はアイドリングです。ペラが回ると早く走れます。公海上誰も見ていません。「ちょんぼ」（ずる）をしても分かりませんが，それで勝って嬉しいでしょうか。ルールは自分で守る，紳士のスポーツです。

【シーマンたれ／シーマンシップ】

「たれ」ではありません。真のシーマンであること。ウエアーだけ揃えてもダメです。シートの結び方から，ヨットの仕組み，エンジン，トイレ，ウインチ，海象や航法，チャート，ナビゲーション，泊地の状況などあらゆる知識が必要です。一旦，出港したら自力で戻らなければなりません。船の修理も洋上で行います。

【キャプテンの役割】

キャプテンは文字通り，総責任者です。沈没する船から先に逃げてはいけません。シーマンの知識の他，クルーをまとめてゴールに向けて一丸となって帆走する能力が求められます。皆の実力を考え，船の耐久性を考え，この海象をどうやって乗り切れるかを考えます。勇気ある撤退もありえます。予知をせねばなりません。しかし冒険ではありません。帰ってなんぼ，沈んではいけません。

船は包括免許で，キャプテンがスキッパー（舵取り）をする義務はありません。小さい船では兼任ですが，四六時走るときにはスキッパーは何人かで交代します。キャプテンは一人です。最終決定をします。

【海を楽しもう】

周囲を海に囲まれている日本，この緯度は天気が次々に変わり，乗り手は苦労します。しかし嵐を経験しているから，凪でも安全に乗れる。航海は一度も同じ条件はありません。だから面白い。海を安全に楽しみたいものです。チェスナットに乗りたい方，ご連絡ください。

ヨットチェスナット